



あなたの太陽はもう沈むことがなく、あなたの月は陰ることがない。主があなたの永遠の光となり、あなたの嘆き悲しむ日が終わるからである。(聖書)



写真はイメージです

未来に希望を持って生きるには

「あなたは百歳まで生きたいですか？」こんな質問を国際アンケートで尋ねたところ、日本以外の国々では52〜66%の人が「そう思う」と答えたが、日本では27%だったそうです。日本は世界トップレベルの長寿国として知られますが、なんと7割

以上の人々が「百歳までは生きたくない」と思っているという事です。大変意外な結果ではないでしょうか。では、なぜこのような結果が生じたのでしょうか。それは「先行きに明るい光や希望が見えにくいから」ではないでしょうか。別の調査では、

日本人の三大不安は「老後、健康、家計」であるという結果が出ています。確かに、以前は右肩上がりだった国力が縮小に転じ始めていることも、その漠然とした不安感に影響していることでしょう。一日にそれをに例えれば、「明るい昼間から段々と夕方を迎え、そして夜の暗さが見えている」、そんな状態とも言えるかも知れません。

暗さの中で気づいたこと

ただ、少し考えてみると実は「暗さが増してくる、そんな時にしか経験できないこともある」ということに気づきます。「星」は最も分かりやすい例でしょう。私は夜に散歩をするのを習慣にしています。毎日のように歩いていると、「日によって夜の暗さが全く違う」ということに気づきました。

ある日、ライトが頼りなく思えるほど暗い夜、ふと見上げると、今まで見たことがないほど見事な星々が見えました。もう少しで天の川が見えるのではないかと思うほどで、しばらく見とれてしまいました。その瞬間にある厳粛な想いがよぎりました。それは「あの星々の中には、太陽の何百倍も大きい星も無数にあるのに、空が明るい日には見えなかったのだ」ということでした。

実際、私たちの感覚では巨大に見えるこの地球も、宇宙と比べると「ちり」のようなものです。そんな小さな星の上で、小さなことに心を乱されながら、小さな人生を生きて、小さな私…。真つ暗な夜空は、そのことを気づかせてくれたのです。そうなのです。ほんとうに偉大なものは、暗さの中で初めて気づくものだったのです。

暗闇を理解して下さる方

キリストがこの世に到来したクリスマスは、まさにそんな暗闇と言える時代に起こ

星空を見上げて気づいた世界

りました。二千年前のイスラエルは、最強のローマ帝国に支配され、人々は重税にあえぎ、民族の誇りを奪われた状態でした。そんな中、ひっそりと生まれたのがイエスでした。聖書には、その誕生を見届けたのは羊飼いと、異国の博士たちだけだったと記されています。しかもその誕生の場所は、家畜が使う洞窟のような場所でした。誰も気づかない世界の片隅で、暗い夜に生まれた赤ちゃん。それは、彼が後に背負うことになる重荷を象徴するものでした。

その重荷とは、私たち人類がその罪のゆえに背負い込んでいる様々な苦しみや悩みのことです。キリストは私たちのそうした痛みを負うために、あのクリスマスの晩に、来て下さったのです。そして、約三十年後、実際に十字架の上で、そのいのちを私たちに与えて下さいました。それは、神が命に代えても惜しくないほど私たちの人生に関心を持ち、大切に思っていることの表れだったのです。聖書が書かれた目的はこの神の愛を私たちに伝えるためでした。

暗闇に輝く光

私たちの人生には、暗闇としか思えないような困難な時があります。けれども、そうした闇の時にしか出会えないものがあるのです。あの夜空に輝く美しい星々のように、です。もしかするとキリストとの出会いも、そうなのかもしれません。もし人生の中で闇の時と考える状況にある方がおられるなら、いまが、光として世に来て下さったキリストとの出会いの時なのかもしれません。ぜひ、小さな勇気を出して、あなたもキリストを求めてみて下さい。